

# 組合支援 ウォッチ

## 福岡県まちゼミフォーラム 元気な仲間たち交流会 in 飯塚 開催

現在、全国350地域で取り組まれている「まちゼミ」。商業活性化の切り札として、大変注目を集めています。

去る11月9日（金）、飯塚市の嘉穂劇場にて、福岡県下で既にまちゼミを始めている方、今後まちゼミを始めようとしている方、行政関係者等が一堂に会し、まちゼミについて共に学び、情報交換を行うため「まちゼミフォーラム」が開催されました。



県内外から約70名が集まった

「得する街のゼミナール」通称「まちゼミ」。お店の方が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報、コツ、また趣味の楽しみなどを受講者（お客様）に原則無料で紹介する、少人数制のゼミです。2003年に愛知県岡崎市で始まって以来、商店街に定着し、その評判から各地に広がっていき、今では全国370地域・2万店舗で開催されています。

この日はまず初めに、まちゼミの生みの親である岡崎まちゼミの会代表・松井洋一郎氏が「ともに考えよう！地域のなかでの個店の役割」と題して基調講演を行いました。

まちゼミには、客・個店・街それぞれにメリットがある“三方よし”の活性化事業であることを強調し、客は個店から新たな知識を得、個店

は新規顧客やリピート客を獲得し、商店街を中心とする街は賑わいを得ることができると説明しました。また、人と人が直接対面し、深いコミュニケーションを通じた信頼関係が生まれインターネット販売にはない充実感が顧客に喜ばれているとし、多くの事例を紹介しました。

その後、4つのグループに分かれ、分科会が開催されました。「まちゼミを含めたまちづくり」と題した分科会では、若松まちゼミの会の副代表・牛島源氏が、住む人、働く人、商う人、訪れる人、全ての人々にとってよりよい街になることを目標に活動し、地元私立大学、官公庁、神社などと連携していることを説明しました。特に、まちゼミなどの活動により絆を深めた結果、「クロス乾杯で世界記録（ギネス）に挑戦」などの大規模イベントも成功に導くことができたことなど、まちゼミを通じた地域連携・地域活性化の効果を紹介しました。

その他の分科会でも、活発な意見交換が見られました。

この日の会場は「嘉穂劇場」。普段は大衆演劇や歌手の公演で賑わう歴史ある芝居小屋です。

参加者は、普段味わうことのできない雰囲気の中で、まちゼミを通じた商店街・地域の活性化を語り合い、交流を深めことができるなど、貴重な機会となりました。



松井氏の基調講演



桝席での分科会



舞台上での分科会